

令和5年度 英語教育実践研究校報告書

仁保中学校区

1 学校の課題

- 令和4年度に実施した英語の授業に関する生徒アンケートの結果から、「英語の授業では、相手からの質問や依頼を聞くとき、相手が何を求めているのかを注意して聞き、それに答えるようにしています。」という項目に、「まったくあてはまらない」と評価した生徒が3.5%おり、まったく英語での表現活動に参加できない生徒の数も一定数存在する。
- 令和4年度のインタビューテストの結果から、自分の考えや気持ちを表現するにおける正答率が、上位層と下位層に分かれてきている傾向がある。

2 研究主題

【研究主題】

「自分の考えや気持ちを英語で表現する力の育成」

<研究仮説>

授業の中で相手意識を明確にした言語活動を増やすことによって、英語でのやりとりを習慣化し、即興で言いたいことを伝え合う力を高めることができるであろう。

3 取組内容

(1) 英語教育の充実

- ① ALTの活用
 - ア 1学年3学級、2学年2学級、3学年2学級に、週に2回ALTを配置
 - イ 授業の中でTABOOゲームやMINI英検など、即興力を高める取り組みを定期的実施
- ② 英語力の検証
 - ア インタビューテスト実施（6月、12月実施）
 - イ 生徒アンケート実施（6月、12月実施）
 - ウ 検定試験の推奨（5月、10月、1月英語検定試験を校内で実施）
- ③ 英語の授業改善
 - ア 月に1回程度教科会を開き、研究校としての取り組みの進捗状況や授業での指導方法について確認、及び共通シートを使ったパフォーマンステストや、それに関連した定期試験問題の作成
 - イ 授業力向上に向けた研究授業・協議会を年間6回（1教員あたり約2時間ずつ）実施
 - ウ 目的・場面・状況を明確にしたペアワークやグループワークを取り入れた授業の実践
 - エ 各学年でsmall talkやディスカッション(3年)の定期的な実施。即興力を養う活動の設定

(2) 英語を使う場の多様化

- ① イングリッシュ・デイ
 - ア 毎週金曜日の英語校内放送の実施
 - イ 昼食時間や放課後のALTと生徒との交流
 - ウ ALTと共に行う伝統文化学習（華道体験）
- ② 伝えるHIROSHIMAプロジェクトへの参加

3年生代表者1名を選出し、平和学習に関するワークショップへの参加や各国大使へ向けた平和メッセージの発信、及び8月6日全校放送での平和のメッセージ発表
- ③ English Roomの整備・活用
 - ア イングリッシュ・ワールド整備・活用（英語書籍、英検問題集、英和・和英辞書の増冊）
 - イ イングリッシュ・ボードの活用
 - ウ 職員室前にEnglish Cornerを設置。

(3) 学習支援

- ① デジタル教材の活用
 - ・ 学習者用デジタル教科書の使用。
- ③ 学習支援システムの活用
 - ・ Google Classroom の活用
 - ・ 学習プリントの掲載、リスニング教材の活用、アンケートの実施 等

(4) 小中連携

- ① 中学校英語教員と小学校担当者との連携
 - ・ 月1回程度（仁保中学校職員室にて）
 - ・ 小学校へのALT配置の日程確認
 - ・ 取組状況の進捗確認や英語の授業についての協議
 - ・ 小中共通 CAN-DO リストの作成
 - ・ 小学校の英語授業に参加（中学校英語教員）
 - ・ 中学校の英語授業に参加（小学校担当者）
 - ・ 小6授業体験、部活体験（仁保中学校にて）
 - ・ 中学校紹介ムービーを撮影（中1）、小6の授業で紹介予定（3月）
- ② 小・中連携研究授業（仁保小にて）
 - ・ 実施日及び学年：令和5年11月17日（金） 小学5年生
 - ・ 参加者：仁保中学校区小・中連携教育研究会英語ブロック教員
- ③ 小学校での取組・実践報告
 小学校では、仁保中学校区 Can-Do リストの小学校段階でのめあてをふまえ、研究主題である「自分の考えや気持ちを英語で表現する力の育成」に通じる取り組みを考え実践した。

4 検証結果

<中学校>

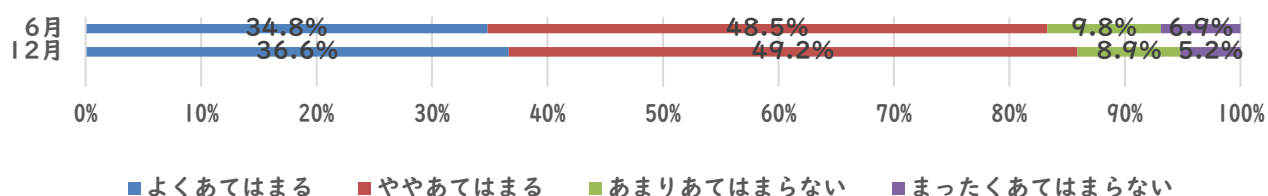
(1) インタビューテスト（第2学年対象：5月・11月実施）

Reading（5点）、Q&A（25点）、Attitude（3点） 計33点満点

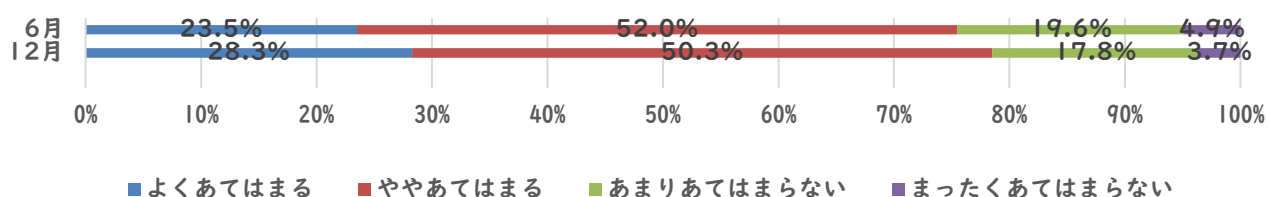
	30～33点	25～29点	21～24点	16～20点	10～15点	9点以下	学年平均点
5月	2%	13%	12%	33%	35%	5%	17点
11月	19%	24%	28%	17%	10%	2%	22点

(2) 生徒アンケート（全学年対象：6月・12月実施）

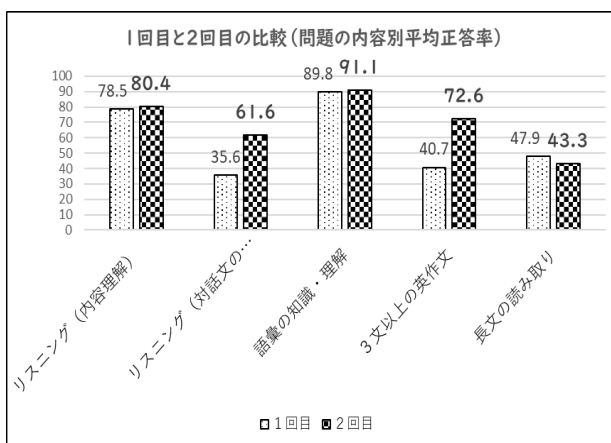
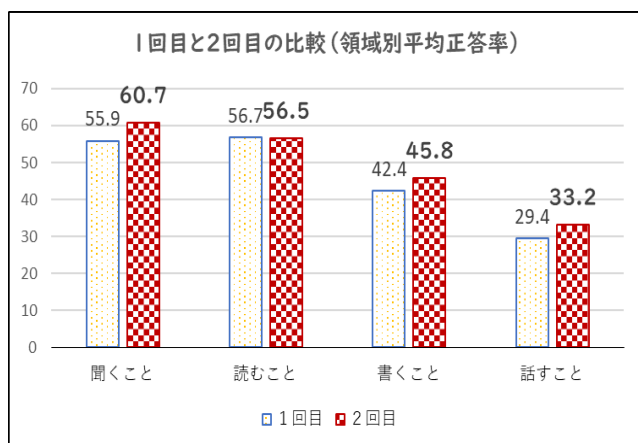
8. 英語の授業では、相手からの質問や依頼を聴くとき、相手が何を求めているのかを注意して聞き、それに答えるようにしています。



11. 英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



(2)標準学力調査テスト (全学年対象：6月・12月実施)



<小学校> (仁保小・黄金山小)

(1)インタビューテスト(5・6年生対象) 5年生は7月と1月に、6年生は6月と12月に実施。

	A	B	C
6月	59%	37%	4%
12月	64%	34%	2%

	A	B	C
6月	71%	24%	5%
12月	68%	32%	0%

	A	B	C
6月	40%	56%	4%
12月	59%	39%	2%

	A	B	C
6月	65%	30%	5%
12月	58%	42%	0%

(2)児童アンケート(5・6年生対象) 5月と2月に実施。

④英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。 について。

(肯定的回答の達成目標 仁保小学校：75% 黄金山小学校：80%)

小学校	5月調査	2月調査	達成
仁保小学校(5・6年)	62%(5年:58% 6年:67%)	77%(5年:65% 6年:89%)	○
黄金山小学校(5・6年)	72%(5年:69% 6年:79%)	76%(5年:78% 6年:72%)	×

仁保小学校

黄金山小学校

	4	3	2	1
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①	33%	42%	17%	9%
②	43%	42%	10%	5%
③	23%	56%	17%	5%
④	23%	39%	30%	7%
⑤	47%	35%	15%	3%
⑥	38%	33%	17%	12%
⑦	37%	41%	15%	7%
⑧	35%	35%	24%	5%
⑨	29%	43%	21%	7%

	4	3	2	1
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①	36%	42%	17%	5%
②	48%	38%	12%	2%
③	35%	47%	15%	2%
④	22%	55%	22%	2%
⑤	53%	35%	11%	1%
⑥	37%	38%	16%	8%
⑦	37%	42%	16%	5%
⑧	33%	38%	23%	5%
⑨	28%	44%	24%	5%
⑩	61%	30%	8%	1%

	4	3	2	1
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①	41%	37%	20%	2%
②	59%	33%	8%	0%
③	39%	47%	14%	0%
④	27%	45%	25%	2%
⑤	61%	24%	4%	12%
⑥	49%	22%	18%	12%
⑦	51%	35%	6%	8%
⑧	49%	29%	20%	2%
⑨	35%	37%	22%	6%

	4	3	2	1
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
①	38%	44%	16%	2%
②	52%	34%	12%	2%
③	48%	30%	16%	6%
④	30%	46%	20%	4%
⑤	54%	30%	14%	2%
⑥	40%	30%	18%	12%
⑦	40%	44%	6%	10%
⑧	34%	42%	14%	10%
⑨	28%	52%	16%	4%
⑩	64%	30%	6%	0%

5 研究成果

(1) 成果と課題

① インタビューテストの結果から

<中学校>

◎ 30点以上の点数をとった生徒の数が17%以上増加しており、学年の平均も17点から22点となった。また、16点以下の生徒が大幅に減少し、上位層との差が縮小した。

▲ 「話すこと」に関する調査結果から、他領域と比較して依然として平均正答率が低い。

<小学校>

◎ 児童側から自分について相手に伝え、ALTからの質問に答えたり、複数回の質問をしたりする姿が見られるようになった。また、これまでC評価(相手に正しく伝えられない等、適切に対応できていない)であった児童が減少した。

② 児童生徒アンケートの結果から

<中学校>

◎ 80%以上の生徒が「相手が求めていること」を意識しながら英語で話そうとしている。

▲ 同項目において、「まったくあてはまらない」と評価した生徒が5%程度いることから、まったく英語での表現活動に参加できない生徒の数も一定数存在する。

<小学校>

◎ 項目④「英語の授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で話しています。」について、仁保小77%(昨年度比+12%)、黄金山小76%(昨年度比+2%)となった。特に仁保小6年の伸びが大きく、日常的に英語に触れる取り組みの約2年間の積み重ねにより、「自分のことを伝える」事に前向きになったのではないかと考える。

③ ペーパーテストの結果から

<中学校>

◎ ALTとのすべて授業の中で授業の最初にSmall Talkを導入した結果、2回目のテストにおいて、対話文の応答にかかわる問題に関して、全国平均60.6%の問題が82.1%、57.9%の問題が60.7%、58.6%の問題が60.7%とすべての問題において、全国平均を上回ることができた。また、「思考・判断・表現」の観点を問う問題についても、全国平均が32.8%に対して、39.3%と大きく上回ることができた。

◎ 授業の終わりに英語での日記を書くようにした。これは毎時間ではないが、週に2回程度行った。このことから3文以上の作文を問う問題において1回目の校内平均正答率は40.7%だったが、2回目においては校内平均正答率が72.6%(全国平均:47.7%)まで上昇した。

▲ 長文の読み取りの項目に関して、全国平均正答率が43.5%、校内平均正答率が43.3%であった。授業ではやり取りの能力に注力していたので、読むことに関する能力を向上させることができなかった。今後は授業で意識的に長文問題に取り組んでいきたい。

(2) 今後の取組

- ・ 授業においては、「話すこと」から「書くこと」へと繋げていく指導を工夫していく。
- ・ 昼食時等に行った英語放送等を継続し、英語を聞くことへの有用感を持たせたり、放課後にALTと話す機会を設けたりするなど、英語を使う場のより一層の充実を図る。
- ・ 小中でのつながりを持った様々な活動(相互授業参観、体験授業等)を継続して実施していく。
- ・ 小学校の段階から、「自分の考えや気持ちを英語で表現する」ことができる児童生徒の育成を目指して、相手意識を明確にした言語活動を設定するとともに、「言いたかったけど言えなかった表現」を全体共有することで表現の幅を広げる指導を取り入れていく。

仁保中学校における取組等の詳細はこちら



仁保中学校区の小学校における取組等の詳細はこちら

